



季刊誌 夏号

笑老ライフ

「笑」って「老」いていける世の中にしたい。



2021.6.30 発行

2021年7月.. 博多の街は、新型コロナの影響により、2年連続で博多山笠が中止となりました。何とも寂しい博多の7月を迎えています。笑老ライフ研究所に於きましては、この7月が、2020年度最後の月になります。激動の2020年度、最後の最後まで意義ある時間を過ごしたいと思ひながら、日々過ごしています。この7月、1年順延をした「東京オリンピック・パラリンピック」が開催されます。コロナ渦での開催ということもあり、この国はまさに綱渡り状態にあるといえるのではないのでしょうか？

こういう状況下、笑老ライフ的生き方とは.. を考えてみました。コロナをあまりにも恐れすぎると、自分自身を見失う事になり、いつも他の人を気にする生活に陥っていると想像できます。やはりこういう時だからこそ自分をみつめ、自分を信じ、自らの目標に向かって一直線に歩むことが大事だと思います。

皆さん、ぜひ今号もお付き合いください。皆様のご健勝を祈念しています。

NPO法人 笑老ライフ研究所 理事長 植木 理美

素敵な笑顔 ナイスショット!!

笑老ライフ研究所が、長年にわたり追い求めていた仕組みが、全国初として福岡市で立ち上がりました。

これは大変うれしい事です。いよいよ福岡に誕生します。これは、認知症ご本人やご家族の方、または介護をされている方々にとって、大変喜ばしい機能だと思ひます。当法人の事務局である照屋氏もこの機能に関わっています。

この法人の今後に期待しています(^)/



室長のギモン? ナンモン? ドンナモン!?

恐怖とは.. と聞かれるというんなことをイメージする。ただ最後に残るこれ本当に恐怖だね.. と思うのは「時間がない」ということだ。皆さんにとって恐怖とは何ですか？

川柳コーナー



このページでは、笑老ライフにちなんだ川柳を取り上げたいと思います。脳トレをすると思ひ、コーナーにぜひ参加をして下さい。今回は、笑老ライフ研究所のメンバーで詠んでみました。さて、誰がどの句を詠んだと思ひますか？

- アジサイの 脇からのぞく つのふたつ
- 見上げると たらちねを待つ くち四つつ
- 雨が降る 予報は出ても 光さず
- ボーナスの 期待は遙か 昔なり
- 祭典を やるかやらぬか まだ消えぬ
- 世界から 日本を目指し 胸躍る
- 楽しくて エンジェルハート 爽快ぞ
- 生のまま 甘さ満開 夏野菜
- 巣ごもりを 満喫できる 生缶と
- 相棒の 人気爆発 さみしいぞ

TOPIC

笑老ライフ研究所 (近況報告)

みなさん、いかがお過ごしですか？ 事務局です。緊急事態宣言がとけ、蔓延防止対策の真ただ中にある福岡市(6/28日現在)。活動がなかなか進まない日々を過ごしています。そんな中、福岡市で認知症の人と企業をつなぐ「人材バンク」が設立されるという記事がでました。ここでは、認知症の方にとって必要な商品やサービス創りにも協力をするようにしているとの事です。これは、私たちが目指し、創る必要があると考えていた機能と同じであり、福岡市が首頭をとってできたという事で大変うれしく思うと共に、今後に期待をしています。一方、当法人はというと5月に調査結果が発表された「ヤングケアラー」問題に関心があり、ここについて現状把握を行っています。当法人理事長の植木が、ヤングケアラーの経験を持ち、大変ご苦労をされてきた中で今を築いています。これからこの問題に対し、微力ではございますが尽力ができるようにと思っています。



川柳・微笑みの写真 大募集

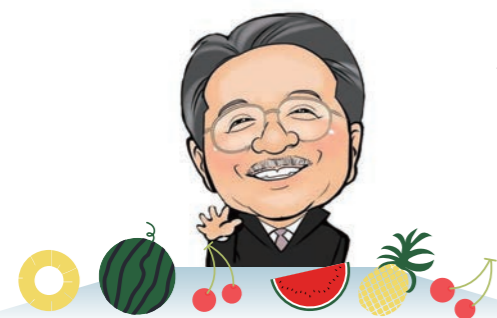
笑老ライフ研究所では、「笑老ライフ川柳」並びに「微笑みの写真」を募集しています。それぞれ年間大賞を決めたいと思っています。皆さま、奮ってご参加ください。

このたより創りを一緒に頂ける仲間を募集しています。年齢制限はありません。お子さんからお年寄りの方まで無制限。幅広い年代の方にお読みいただき、この生き方が広く伝わればと思っています。皆さまの参加をお待ちしています！【お問い合わせ先】連絡先・担当者 山崎 TEL:080-8575-0039

私の笑老ライフ 大募集

「My・笑老ライフ」を募集しています。人生いろいろ、男もいろいろ、女だっていろいろです。その中で、誰しもターニングポイントになったできごとがあるかと思ひます。その生きる智慧を共有し、笑老ライフを生きる仲間の支えにできればと考えています。





My・笑老ライフ

父の笑老ライフ

NPO法人 笑老ライフ研究所
理事 井上 嘉人

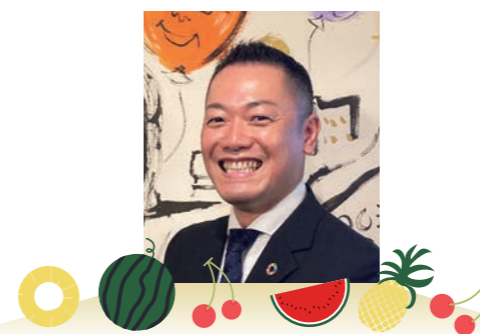
私の父は3年前に95歳で亡くなりました。母は早く平成5年に亡くなっています。父は、母の死後しばらくして仕事を辞め、いわゆる第2の人生を始めています。それまでは、町内のことなどは母に任せていたのですが、仕事を辞めてからは町内会長や老人クラブの会長など町内や校区の活動を精力的に行うようになりました。それだけではなく、地元の自然環境保全に興味を持ち、「飯盛山を守る会」や「室見川再生を語る会」などいくつかの団体を作り、いろいろな人に協力してもらいながら楽しく社会的活動を行い90歳近くまで精力的に動いていました。前述の二つの団体は、父が亡くなった後もしっかりと活動を続けています。おそらく20年程度だと思いますが、本当に楽しくいろんな人と話し合いながら体も動かしながら過ごしたと思います。いわゆる父なりの実社会での「笑老ライフ」ではないかと思っています。



その後90歳になる前位から認知症の症状がではじめ、持病の糖尿病のせいか急速に症状が進んでいきました。数年間は自宅で過ごしましたが、晩年は特養にお世話になりました。この特養に入るまでの数年間は、身の回りの世話をしていた私の妻にとっては、大変な日々でした。まさに身を削って世話をしている状況でした。特養に入ってからも、本人は暴力的になるわけでもなく、何十年も前のことをさも昨日のことのように話したり、忙しくいろいろな仕事をしていて充実しているような話を良くしていました。会いに行っていた近所の人、「お宅のお父さんは施設に入ってもいろいろ仕事をしてあるのですね。」と、すっかりだまされてしまうようなリアリティのある話をしていました。ある時は、私の妻に向かって「息子を結婚させないかん。いい人はいませんか。」などと



言ったこともあるようです。何かの行事ごとの際には、内容はさておき朗々と開始の挨拶などをしていたようです。周りから見ると、すっかり認知が進んで大変のようですが、本人は幸せだったのかもしれないと思っています。いつも笑っていたわけではありませんが「笑老ライフ」を全うしたのではないかと思っています。



My・笑老ライフ

一日一笑

NPO法人 笑老ライフ研究所
事務局 岡 宏樹

「一日一笑」この言葉は、僕が社会人となってから毎日心掛けている言葉です。小さい頃から学年や年の差に関係なく、多くの人たちに可愛がって頂き思春期の頃は元気が有り余る活発な毎日を過ごして参りました。社会に出てからの殆どの時間を「ホテルマン」として、ホスピタリティの勉強に費やしてきました。その後、中央区にある鉄板焼きで2年半、ホテル時代に学んだホスピタリティ



をフル活用して結婚記念日やプロポーズ等の演出を多数させて頂きました。僕がサービス業を選んだきっかけは、熊本のとあるガソリンスタンドのお兄さんとの出会いでした。敬語もまともに話せない僕から両手でお金を受け取り、バックミラーから見えなくなるまで頭を下げて見送ってくれました。衝撃でした。初めて人に頭を下げる姿がカッコよく見えました。そして約20年のホテルと飲食店というサービス業を離れ、悠愛グループの門を叩きました。異業種か

らの僕を職員の皆さんは温かく迎え入れて頂き、毎月人間力向上の為に魂を磨いております。最近では趣味のテニスの熱が再燃し、週に2回はクタクタになるまで走り回っております。テニスコートでも様々な友達ができ、今でも諸先輩方に大変可愛がって頂いております。



話は戻りますが、ホテルマン時代、当時ではまだ珍しい男性のウエディングプランナーとして勤務しておりました。ご披露宴当日は、新郎新婦様とも今まで経験した事が無い位の緊張ですので、二度と戻らない今日という日を精一杯楽しんでもらう為に全力で取り組んでおりました。とにかく楽しんで頂こう、笑って頂こうと思い「一日一笑」を心掛けておりました。そんな僕も、植木理事長の笑顔に何度も何度も救われました。理事長とお話をすると、不思議と心が軽くなり自分の悩みがとても小さく思えたから不思議です。薬も注射も要らず『笑顔』をもらうだけで「人はこんなに元気になれるんだ」と実感しました。今、NPO笑老ライフ研究所の事務局員となって考えるのは『笑って老いていける世の中にしたい』を会員の皆様と一緒に実現したいという事です。そして、一人一人の笑顔は、世の中を救う『特効薬』になると信じています。